

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立宮前小学校

校長 谷合 みやこ

令和7年度 目黒区立宮前小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和7年 4月26日(土) 午前9時20分～午前9時45分
 - ・学校からご挨拶
 - ・今年度の学校行事、年度当初の児童の様子について
 - ・授業参観
- (2) 第2回実施日時 令和7年 6月14日(土) 午後12時30分～午後1時10分
 - ・道徳授業地区公開講座、学校保健委員会について
 - ・児童の様子について
- (3) 第3回実施日時 令和7年 9月20日(土) 午前8時35分～午後12時30分
 - ・授業参観
- (4) 第4回実施日時 令和7年12月20日(土) 午前8時30分～午後12時30分
 - ・学芸会
- (5) 第5回実施日時 令和8年 1月28日(水) 午前10時05分～午後12時30分
 - ・人権オープンスクール
 - ・学校評価委員会

2 参加者

学校評議員 (渡部 浩文・福田 則子・佐藤 美亜・岡田 貴美代)
校長・副校長

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎保護者の評価は微増であるが、区平均から+2.4であり、教員が日頃から誠実かつ丁寧な対応を行っている成果と捉えている。 ●低学年児童の評価は昨年度を大きく上回ったが、高学年	・これまで行っていない「学年経営案」「学級経営案」を担当が熟考し、まず、一人ひとりに居場所のある、安心、安全が担保された学級をつくる。児童の帰属意識を高める。	・高学年になると、学校以外での活動(塾、スポーツ、芸術の習いごと等)が増えて子どもたちの居場所が広がり、学校だけではなく。高学年の結果はそのことを表しているのではないか。

	<p>児童はマイナスとなった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習活動をより充実させる。「楽しい」「分かりやすい」授業を目指し改善を図る。 タブレットによる回答のため、個人が特定できない場合もあるが、各学級担任が学級経営をふり返り、改善点を見出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の子どもには、一日の中にフリーな時間がない。フルに頑張っている。これは、世の中の仕方がないことだが、常に何かに追われている状況にある。
<p>II 教育目標について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育目標、時程、教育内容全体について 	<p>◎午前40分授業午前5時間制が定着し、学校便り等で「かかわりを大切にする」ことについて随時発信できていることが成果に表れている。</p> <p>●引き続き発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「かかわりを大切にする子」を重点目標として、異学年交流や学習以外の教育活動の充実に努める。 「裏庭活動」をさらに充実させる。週に一度、清掃の時間から「裏庭タイム」として活動時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 宮前小学校の特徴である裏庭での経験は、一生の財産。農業体験、池の掃除、稲作体験など、宮前小学校の裏庭は、多様な経験の舞台である。ますますいかしてほしい。
<p>III 心の教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について 	<p>◎土曜公開等における道徳授業の取組を評価していただいた。</p> <p>●高学年の結果が下降したのは、客観的に自らを省みる力が十分に育っておらず、自分の思いを優先する児童の回答からと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 道徳及び全教育活動を通じて、教師が率先垂範し、生活指導を基盤とした心をはぐくむ指導を全教員で共通実践して指導していく。 当事者意識を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 困っているという発信ができない子が多いのではないか、認め合える雰囲気作りを大切にしてほしい。
<p>IV 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、習熟度別指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組 	<p>◎土曜公開や学校行事等において、全体的に落ち着きがあり、前向きに取り組む様子が評価されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> すべての児童に学習権を保障するために、学習規律の徹底は不可欠である。「時刻を守る」「準備を整える」「自ら学ぶ」 	<ul style="list-style-type: none"> 昨今の子どもは「分からない」という発信が苦手である。困っている子が目立たない。 学校は塾とは違う。

<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について 	<p>◎低学年児童の回答が大きく上昇した。日頃の学習規律の徹底と意識が表れた。</p> <p>●高学年児童の下降は、日頃からの学習規律は概ね保たれている中であるべき姿は分かっているながら、自己評価は低いと捉えている。</p>	<p>といった共通事項を示し、各学級での指導を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「のびっこ」の時間には、まず前学年の学習内容をクリアすることを目標として、そのうえで自己選択学習に取り組む。低位層の児童の基礎学力の定着を目指す。 ・ICTの活用の基礎体力ともいえるタイピングスキルに関しては、週に一度、朝の時間に「タイピングスキル」向上のため、全校共通のアプリを活用して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に困り感のある子どもたちに焦点をあてて、夏休みの補習、低位層の子どもたちへの個別学習などできないか。
<p>V 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について 	<p>◎保護者の数値は運動会をはじめ体力向上策が浸透し、保護者評価の安定につながっている。低学年児童は、体育の学習の充実が数値に表れている。</p> <p>●高学年は、運動経験の二極化が広がり苦手意識がある児童のマイナスが増えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の学習の一層の充実を図る。特に高学年児童においては、苦手意識のある児童に対する支援を充実させる。 ・休み時間の外遊びの奨励やぐんぐんウィークなどの取組を通して、関心意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動する子とそうでない子の差が広がっている。学校での運動経験を大切にしてほしい。
<p>VI 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて 	<p>◎運動会、学芸会等の学校行事は児童の成長を間近に見られるよい機会である。今年度も多くの保護者の方に参観していただいた結</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動「みやっこ」やクラブ活動をこれまで以上に充実させる。 ・計画は綿密に立案するが、教師主導でなく児童が当事者とし 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人っ子が増えている中、みやっこ班の活動はとても重要である。宮前の子どもたち同士つながりを強固にしていると思う。

	<p>果と捉えている。</p> <p>◎児童の数値は低、高学年共に上昇した。教員が行事に向けた取組をより充実させるべく、意図的計画的に取り組んだ結果である。</p>	<p>て行事等を作り上げる経験を積ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士のかかわりの場を増やし、高学年児童には自分たちの考えが実現していく過程を直接体験させ、実感を伴った楽しさを体得できるように、教育活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の良さ、個別の良さを合わせて、よりよいものにしてほしい。
<p>Ⅶ 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて 	<p>◎土曜公開、学校行事の様子から、保護者には一定の評価をいただいた。</p> <p>◎低学年児童についても、日頃から学習規律が徹底されていることが数値に表れている。</p> <p>●高学年児童については、落ち着いた生活が保たれてはいるが、一部の児童に、やらなければいけないと分かっているにもかかわらず実践できていない、実践していないという自覚があることで数値の低下がみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から学習規律や生活規律の徹底を図る。 ・総合質問紙調査「i-check」の結果やスクールカウンセラーの助言を生かし、良好な人間関係を築いていく。 ・人権教育推進校としての取組の一環として、自分たちの生活を自分たちでつくるという意識をもたせ、自分を律する生活を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮前小の教員は、手厚く子どもたちをみてくださっている。 ・個々にみれば、指導が必要な子どももいるかもしれないが、全体的に落ち着いている。 ・教職員、支援員が子どもたちを支えてくださっている。
<p><防災教育・安全指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて 	<p>◎毎月の安全指導、避難訓練の充実が数値として表れている。災害の種類によって、まず自助の意識を高め、高学年段階においては共助の意識をもたせた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練をより現実的に当事者として取り組めるよう、場面設定、実施時期等について熟考する。 ・自分の命は、まず自分で守るという意識を高める。 ・正しい避難行動につ 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を通じて非常時のこと身に付いている。習慣化していることを感じる。

		いて学ばせる。	
<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について 	<p>◎数値（保護者のみ回答）は昨年度より上昇がみられているが、区平均からは9.3ポイント下回っている。あいさつ運動で卒業生である第十中学校の生徒と交流しているが不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区のあいさつ運動では、小学生・中学生・保護者・地域住民が一つになって活動でき、子どもたちにとってはとてもよい経験ができていますので、継続して行っていく。 ・合唱コンクールリハーサル・部活体験等の行事への参加は第5学年に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先般のめぐろ子どもいじめ会議、子どもたちはとてもよく考えていた。中学生は小学生に寄り添っていた。自分が小学生の時にしてもらったことをしてあげるとい気持ち生まれ、つながっていく。
<p>VIII 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実について 	<p>◎C4th、H&Sなどの活用、学校ウェブサイトからの発信に積極的に取り組んでいることが数値に表れた。</p> <p>●紙媒体でないと情報を共有できない場合もあることから、紙媒体とICTのハイブリッドで進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ウェブサイト、掲示板、紙媒体、それぞれの良さを活用してハイブリッド形式ですすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C4thに文書の検索機能があるとよい。 ・紙文書、デジタルデータ、それぞれのよさがある。当面の間はハイブリッドで良いのではないかと。
<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>◎教職員の数値は100であり、互いに支え合い高め合う教員集団が構築できている。</p> <p>●個々の力を高めるために研修は必須であり、積極的な外部研修への参加を促す必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は2名の新規採用教員の配置があった。コミュニケーションを密にして、精神的なサポートを欠かさず、誠実に職務を遂行している。 ・教員一人一人の能力や特性に応じてキャリアプランについて指導助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選などにより、やむを得ないことだが、地域とのつながりが希薄になっている。教職員と地域が互いに顔見知りである関係が望ましいが、難しい現状も理解できる。

<p>X 教員の働き方改革について</p> <p>・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について</p>	<p>◎95%で、昨年を16.4ポイント上回った。会議、研修を精選し、教材研究等個々の時間を確保した。</p> <p>●業務分担や組織的な業務の進め方など、改善すべき点は残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の資料配付、簡潔な説明などを工夫し、効率化、平準化を図る。分掌ごとの役割や責任を明確にし、他組織でも分担をしながら進める。 ・情報が確実に共有できるような組織を編成する。 	
<p>XI 服務事故の防止について</p> <p>・服務事故防止に向けた取組などについて</p>	<p>◎職員夕会や処分発令資料の活用により、教職員に服務規律の厳正についての意識が高まった。</p> <p>●当事者意識をさらに高め、どこの学校にも起こり得ることという危機意識をもちたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員夕会では処分発令の事案を例に挙げるなどして意識の向上を図る。 ・処分発令時には、ふくむニュースレターを共有し、事故未然防止のポイントを周知する。 	